



李登輝氏

李氏のコーネル大学訪問は以前から計画されていたもので、当初十二月に行く予定だったが、健康上の理由から延期していた。コーネル大学に新設される「李登輝記念科学技術研究所」の開所式に招かれて出席する。李氏は一九六五年に同大学に留学、六八年に農学経済博士号を取得した。クリントン前政権も李氏

【台北27日＝矢島誠司】関係筋が二十七日明らかにしたところによると、台湾の前総統、李登輝氏が今春、母校の米コーネル大学を再訪することが固まった。ブッシュ新政権もすでに李氏に入国ビザを発給する方針を固めており、李氏の訪米が確実となった。京都大学が母校でもある李氏は、かねて日本訪問を強く希望しており、総統退任後初の訪米が実現すれば、訪日の問題にも影響を与えそうだ。

# 李登輝氏が今春訪米

## 母校の研究所開所式に出席

### ブッシュ政権 ビザ発給へ 訪日にも影響

の私人としての訪米を受け入れる意向だったが、ブッシュ新政権は、より積極的にビザを発給する方針という。同筋によれば、父親のブッシュ元大統領が李氏に今月二十日の大統領就任式への出席を打診したが、李氏の方で、体調とワシントンの厳冬の気候を考慮し、辞退していた。

李登輝氏は昨年五月に台湾の総統退任後、十月に長野県で開かれた日台シンポジウム「アジア・オーパシオン」に出席の希望を表明し、ビザ申請を検討したが、日本政府が中国の朱鎔基首相の訪日の直後でもあり、受け入れ困難の意向を伝えていたため、見送った。李氏は昨年十一月、台湾で心臓冠状動脈狭窄症を治療する手術を受け、術後の経過は順調とされるが、李氏周辺筋による

と、事後の経過処置の問題もあり、日本での再治療を兼ねて、今春にも日本訪問を実現させたい考え。

日本政府はこれまで中国の強い反対を受け、李氏へのビザ発給に慎重な姿勢をとってきたが、米國が発給し、訪日も健康上の理由が主であるとなれば、次回も拒否するのは困難とみられ、私人として受け入れる方向が強まりそうだ。在京外交筋によると訪日は訪米後の可能性が強いという。

李氏は退任後、すでに英国とチエコを訪問している。李登輝氏は総統在任中の九五年六月、コーネル大学を非公式訪問したが、中国が強く反発、台湾海峡でのミサイル危機にまで発展したことがある。李氏を中国分離主義者と非難する中国政府はその後、いかなる形で訪日にも反対すると繰り返し表明、日本政府に圧力を加え続けてきた。